



世田谷区誌研究会 会報

令和8年5月号

NO62

編集人 野岸敏雄
天海敏彦

連絡先：kushiken0817@yahoo.co.jp

ホームページ：<https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/>

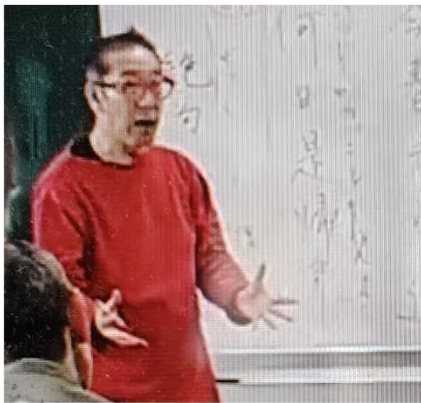
若葉の色が日に日に濃くなり、季節の歩みを実感する頃となりました。今年の春は、地球温暖化の影響でしょうか、寒暖差の激しい日が続き、体調管理に気を遣う日々が続きます。今年から最高気温が40℃以上を「酷暑日」の用語が採用され厳しい気候の変化も予想されます。国際情勢に目を向ければ、アメリカによるイラン攻撃の報が伝わり、世界の不安定さをあらためて感じさせられます。落ち着かない世の中だからこそ、地域の歴史を静かに見つめる時間の大切さを思います。

さて、昭和25年に発足した世田谷区誌研究会は、本年で76年を迎えました。令和8年度は、4月20日現在、47名の会員の皆さまとともに新年度をスタートいたします。

令和7年度の会計報告を添付しますが昨年は会員66名で講演会は8回実施しました。会員の高齢化と新会員の減少で長期低落傾向に歯止め出来ませんでした。定年延長は新会員獲得のネックです。新会員の獲得が会の存続の鍵であると乾坤一擲・現役世代にも参加可能な土曜日に講演会を設定し従来の多様な講師の講演でなく現役大学教授でテレビ・ラジオなど多方面で活躍する山口謠司氏による連続講座として3月の世田谷区広報に「声を出して学ぶ論語」と掲載し募集しました。参加者30名、講座受講料1万円、講師謝礼及び諸経費30万円で収支トントン。申込多数で抽選は年齢の若い順との狸の皮算用でした。

3月1日の広報掲載から4月11日迄の期間、多数の応募を期待した狸は焦っていました。現役世代の応募はありません。ほとんど70歳以上の高齢者で最初の1週間で応募はなくなりました。昨年までの講演会の常連からの応募も僅かです。繰越金がありますので収支は気にしませんが新会員獲得の皮算用は見事に外れました。講演会が応募してくださった方の期待を裏切らない内容になることを祈るばかりです。

4月11日は初夏を思わせる好天気でした。そして一般応募7名、会員8名合計15名で開始です。



司会の天海氏が先生の経歴紹介。大学教授との紹介で赤いシャツに赤いめがねの満面笑みの山口謠司講師の講演がはじまりました。先生の経歴の詳細はホームページに。

最初は論語の起源について孔子と弟子との会話の500ほどが論語としてまとめられている。その解釈について時代や年齢などによりいろいろな解釈があるなかで先生は**文献学**の学者として孔子が活躍した紀元前500年頃の漢字の成り立ちや意味を論語と漢詩で解説しこの1年間の何か**ジン**とくるものがあれば嬉しいと述べられ授業は始まった。黒板に漢詩が書かれている。

今の時代パソコンでパワーポイントでの講演が中心ですが先生は黒板とマイクなしの良く通る声での講演で90分間ほとんどしゃべりまくりました。最初に配られたレジメはこの講座の意義や論語についての説明でしたがひとつひとつのエピソードに笑いやうなずきで進んで行きました。

自己紹介で両親が付けた謠司（ようじ）の名前の由来は家業が能である。能は舞・謡（うたい）囃子があり謡の司（トップ）になることを望まれたが育てられた。しかし舞で挫折し家業をあきらめたという。しかし母親にとって謠司はようじ(幼児)なので赤シャツが幼児だといつも着ているというような先生のネタがいくつも紹介されて論語いう難しそうな学問(?)に受講者の緊張感も薄れて爆笑で教室は和らくなっていきました。